



## 4. メガネカスベ

*Raja pulchra* Liu

図版 1

英名 mottled skate

露名 ИЗЯЩНЫЙ СКАТ

地方名(北海道) マカス

べ、カスベ、カスベ

漢字 鮃、鮃、槽倍

アイヌ語名 ウツッ、カスンペ

【形態】 吻\*は短く、太い吻軟骨\*で支持されており、ほとんど折り曲げることができない。体盤\*の背面中央に1本の棘\*

がある。尾部は短く、縦扁\*し、雄には1列、雌には5列の小さな棘が並ぶ。雄は腹びれが変化してできた1対の棒状の交尾器\*を持つ。尾部両側の皮下には、前後方向に伸びた紡錘形の発電器官を持つ。体盤の背面は淡褐色で、不規則な雲状の茶色の斑紋\*がある。

和名の由来である胸びれ中央の目玉模様は若魚\*では明瞭であるが、成魚\*では不明瞭である。体盤および尾部の腹面は白色または肌色で、ふつう斑紋はないが、まれに尾部に暗褐色の斑紋\*がある。全長\*は1mをわずかに超える。

【生態】 日本海、オホーツク海、東シナ海、黄海、太平洋に分布し、北海道では日本海とオホーツク海の沿岸に多い。ガンギエイ科魚類のなかでは沿岸性の種\*で、水深100mより浅い砂泥域に生息し、水深5m程度の浅い場所でも漁獲される。

メガネカスベを含むガンギエイ科魚類はすべて卵生\*で、「たこのまくら」や「カスベのたばこ入れ」と呼ばれる糸巻き形の卵殻\*に包まれた卵を産む。メガネカスベの卵殻は長さ140~185mm、幅70~94mmと大きく、四隅につの状の突起がある。岸に卵殻が打ち上げられる時期から、産卵期は春とされる。産卵の数カ月後には1個の卵殻から1~5尾の幼魚\*が生まれる。産卵場は不明であるが、オホーツク海では水深40m付近のホタテガイ漁場で多数の卵殻

が見つかった記録がある。

年齢と成長との関係や食性は不明。食性が知られるほかのガンギエイ類はいずれもエビ類を好むという。



ホタテガイ漁場で大量に見つかった卵殻  
(黒く見えるのが卵殻)